

アンケート

今回の参加者は、

一般参加者：410 人

学割参加者：21 名

プレセッションのみ（無料参加）：95 名

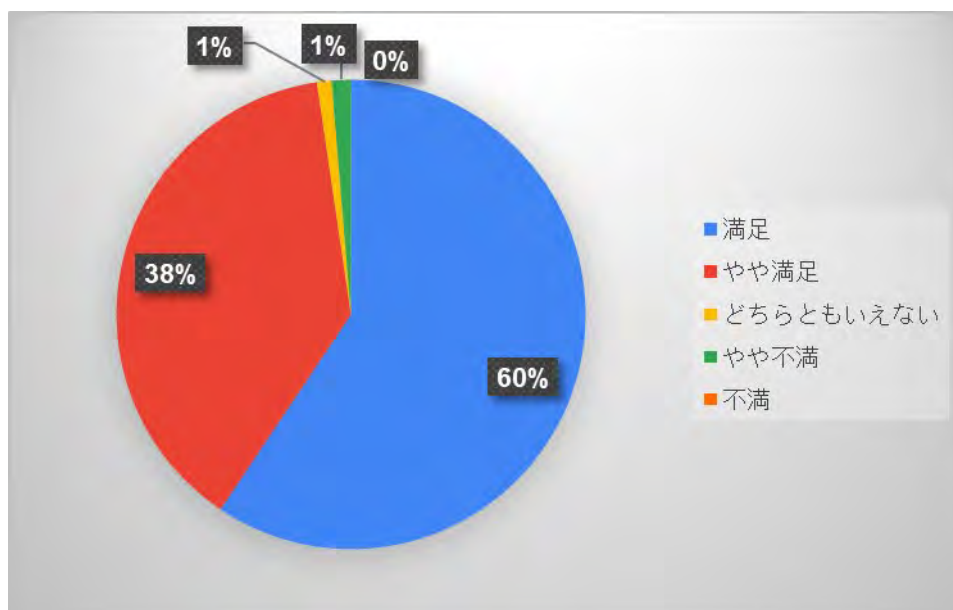
クロージングセッションのみ（無料参加）：115 名

アンケート回答数は、76 でした。

アンケート回答者の内、一般参加 59、学割参加 2、無料セッションのみ参加 9、登壇者・設立発起人 6 でした。

1. フォーラムの全体的な満足度：回答数 76 名

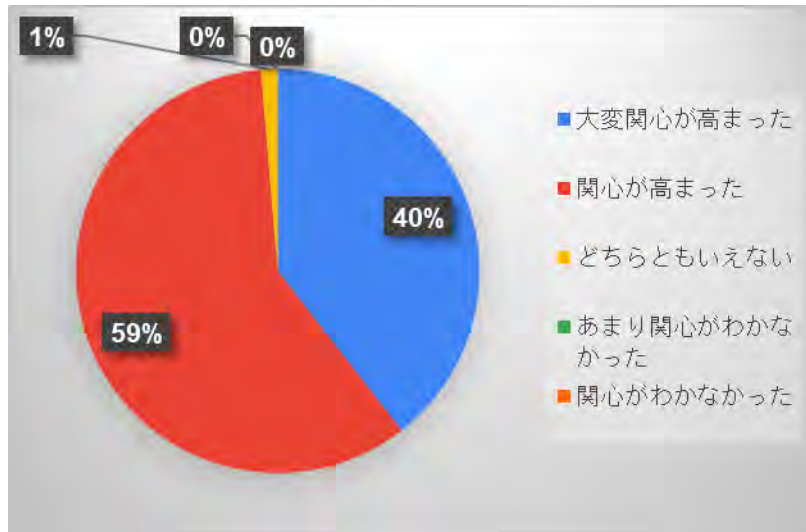
フォーラムの全体的な満足度について、「満足」が60%（45名）、「やや満足」が38%（29名）、「どちらともいえない」が1%（1名）、「やや不満」が1%（1名）、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、98%（74名）でした。



アンケート

2. フォーラムを通じた関心度の高まり：回答数 76 名

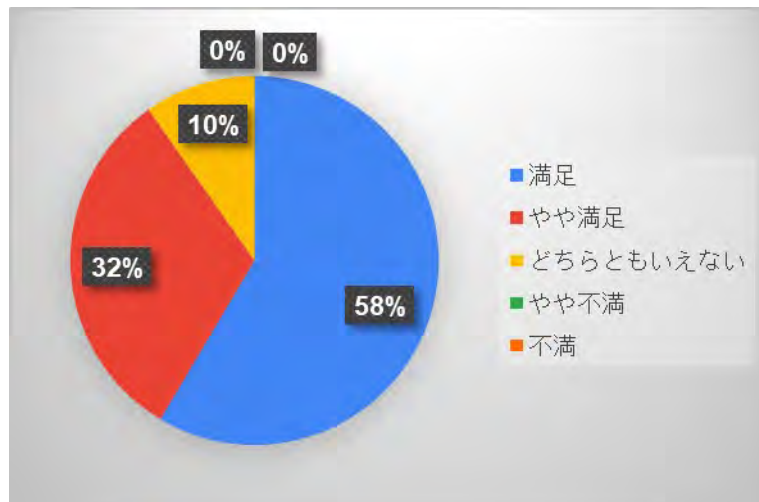
フォーラムを通じた子どもの社会的養護に関する横断的な相互交流や相互研鑽への関心が高まりについて、「大変関心が高まった」が40%（30名）、「関心が高まった」が59%（45名）、「どちらともいえない」が1%（1名）、「あまり関心がわからなかった」が0%（0名）、「関心がわからなかった」が0%（0名）でした。「大変関心が高まった」と「関心が高まった」を合わせると、99%（75名）でした。



3. 各プログラムの満足度

プレセッション①「あらためて、こども家庭センターはなぜ必要か」：回答数 41 名

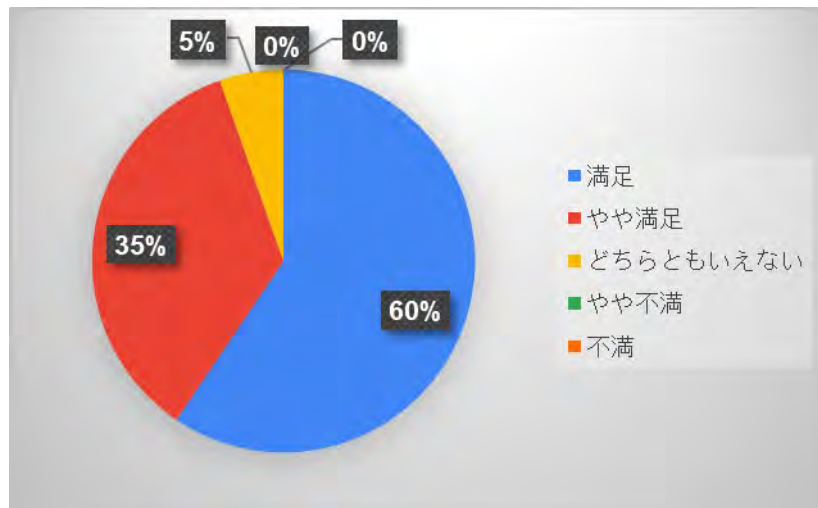
「満足」が58%（24名）、「やや満足」が32%（13名）、「どちらともいえない」が10%（4名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、90%（37名）でした。



アンケート

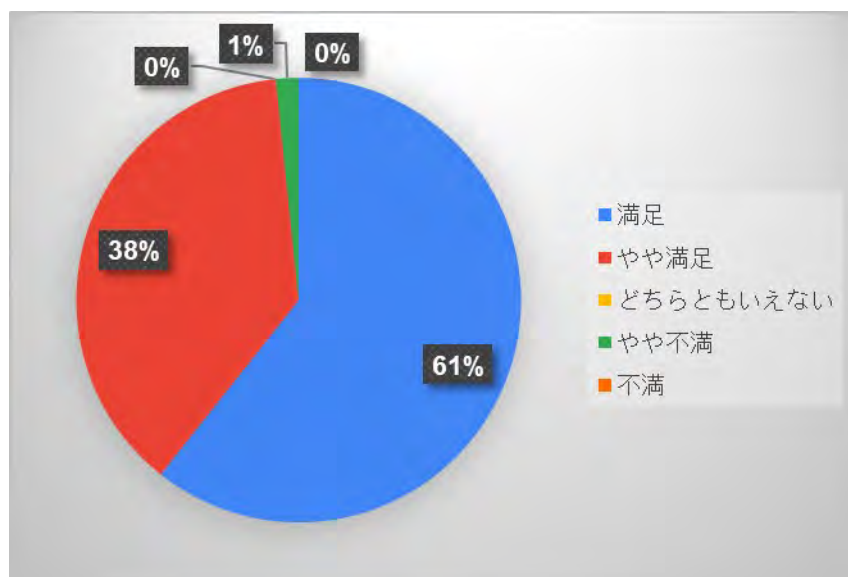
プレセッション②「パーマネンシーを保障する母子生活支援施設の実践と可能性」：回答数 37 名

「満足」が60%（22名）、「やや満足」が35%（13名）、「どちらともいえない」が5%（2名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、95%（35名）でした。



メインシンポジウム「パーマネンシーを踏まえた家庭養護の推進」：回答数 61 名

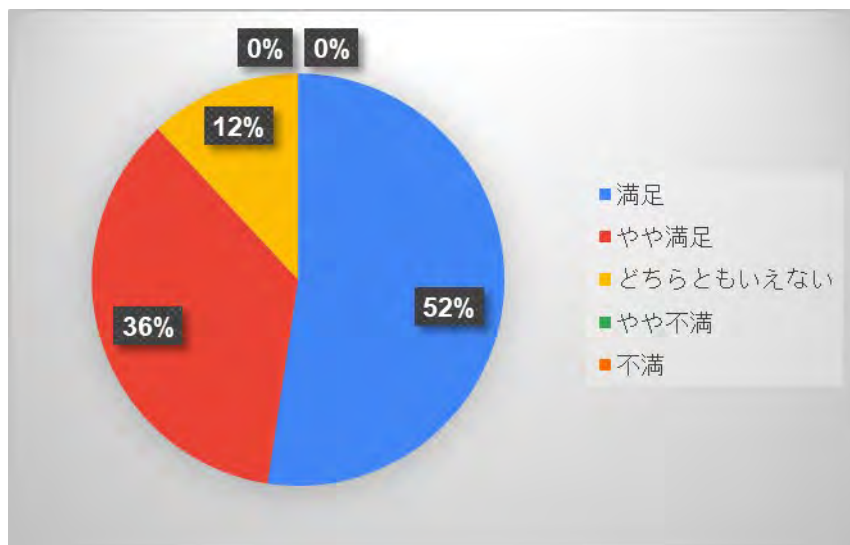
「満足」が61%（37名）、「やや満足」が38%（23名）、「どちらともいえない」が0%、「やや不満」が1%（1名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、99%（60名）でした。



アンケート

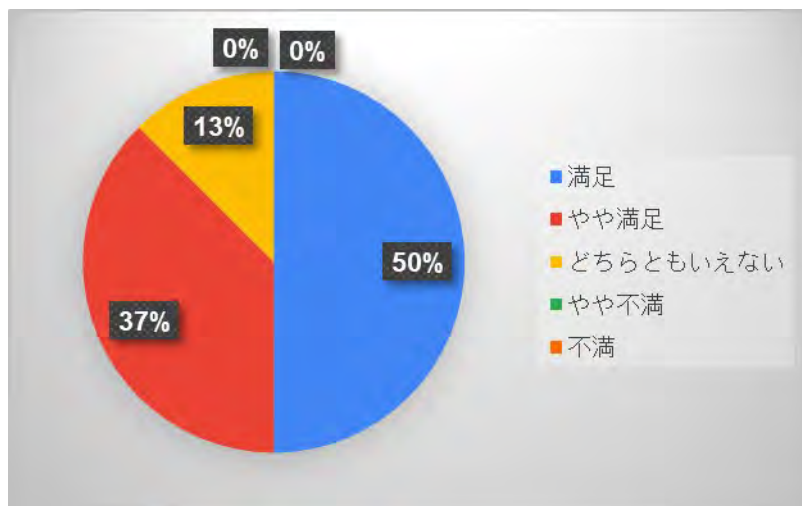
講演録画&鼎談「故・村瀬嘉代子先生を偲んで～社会的養護における子どもの養育を考える～」：回答数 42 名

「満足」が52%（22名）、「やや満足」が36%（15名）、「どちらともいえない」が12%（5名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、88%（37名）でした。



分科会 1 「家庭支援事業なくしてサポートプランなし～社会起業：家庭支援事業創出のすすめ～」：回答数 32 名

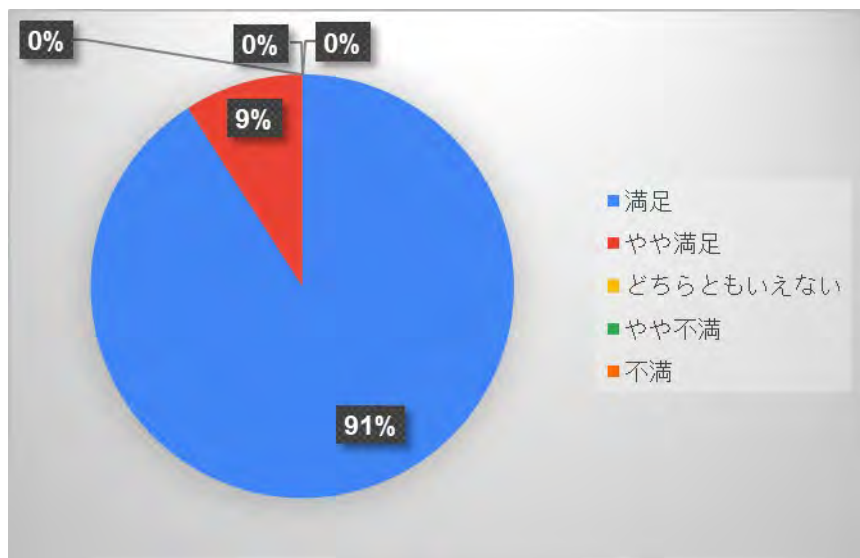
「満足」が50%（16名）、「やや満足」が37%（12名）、「どちらともいえない」が13%（4名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、87%（28名）でした。



アンケート

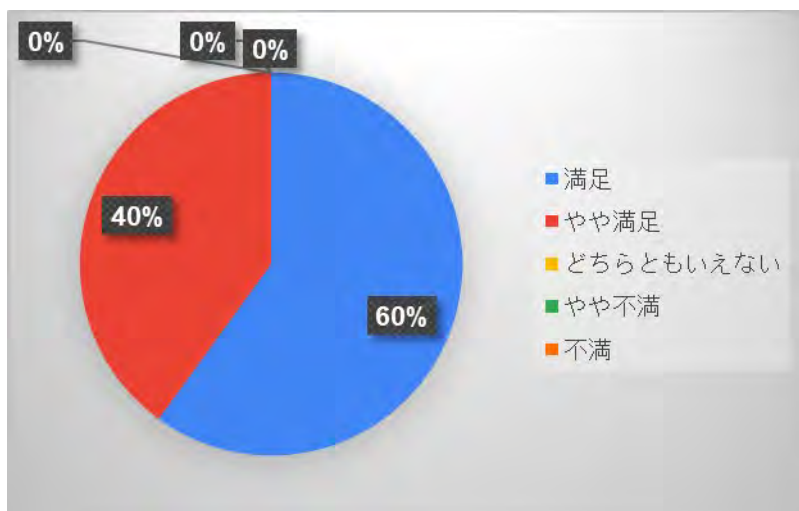
分科会2「子どもの出自を知る権利について考えよう！」：回答数 11 名

「満足」が91%（10名）、「やや満足」が9%（1名）、「どちらともいえない」が0%（0名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、100%（11名）でした。



分科会3「乳幼児総合支援センター実現への道」：回答数 10 名

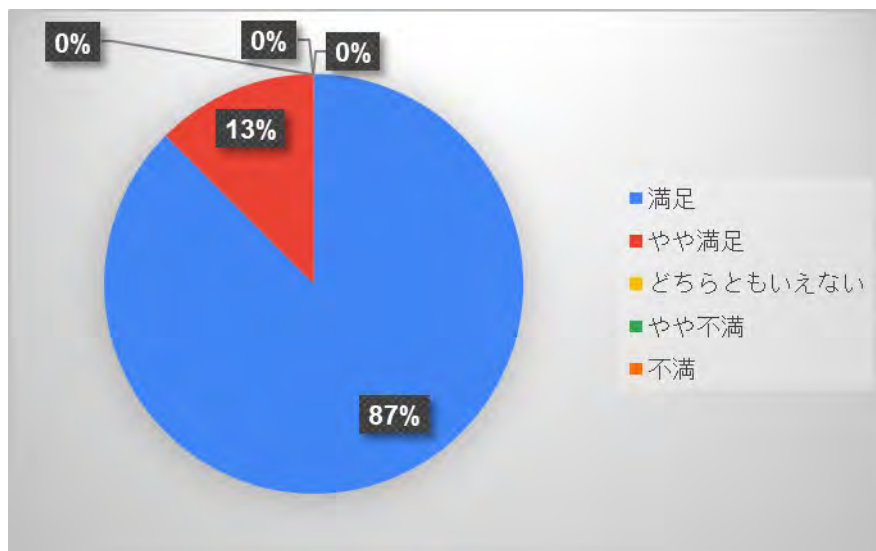
「満足」が60%（6名）、「やや満足」が40%（4名）、「どちらともいえない」が0%（0名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、100%（10名）でした。



アンケート

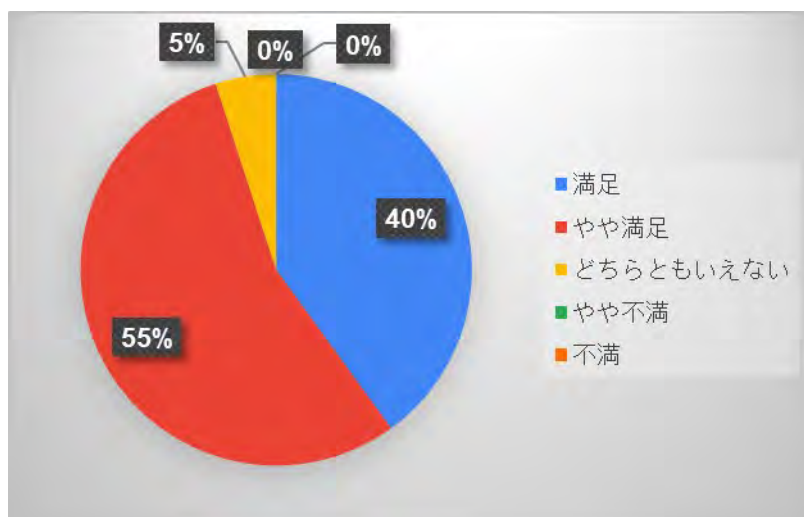
分科会4「里親養育の質の向上を目指した里親リクルート」：回答数 8 名

「満足」が87%（7名）、「やや満足」が13%（1名）、「どちらともいえない」が0%（0名）、「やや不満」が0%、「不満」が0%でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、100%（8名）でした。



基礎セッション①「子どもの意見を聴くとはどういうことか」：回答数 20 名

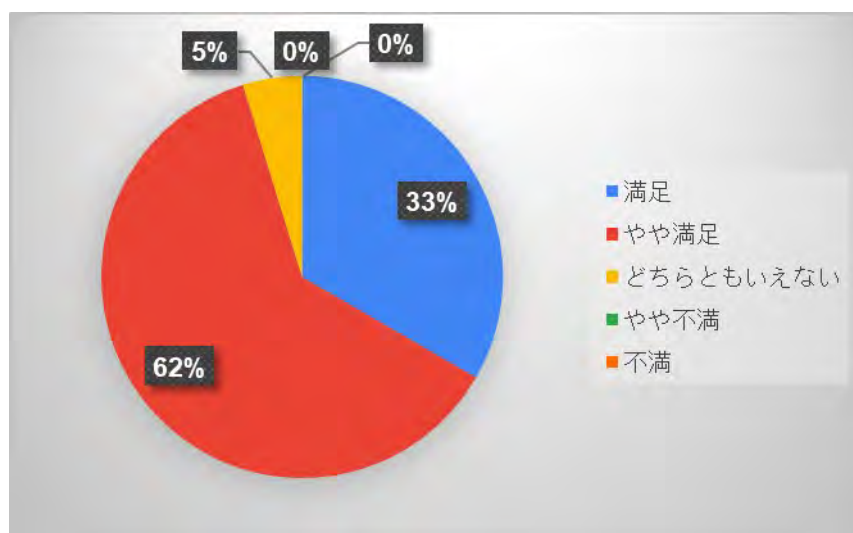
「満足」が40%（8名）、「やや満足」が55%（11名）、「どちらともいえない」が5%（1名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、95%（19名）でした。



アンケート

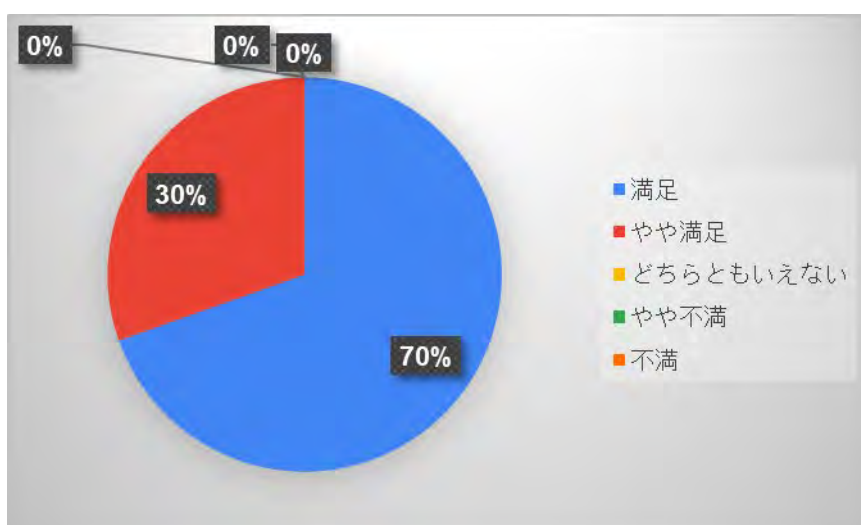
基礎セッション②「What's 児家セン!？」：回答数 21 名

「満足」が33%（7名）、「やや満足」が62%（13名）、「どちらともいえない」が5%（1名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、95%（20名）でした。



特別シンポジウム「自立支援の新たな風～支援対象の拡大に向けて～」：回答数 46 名

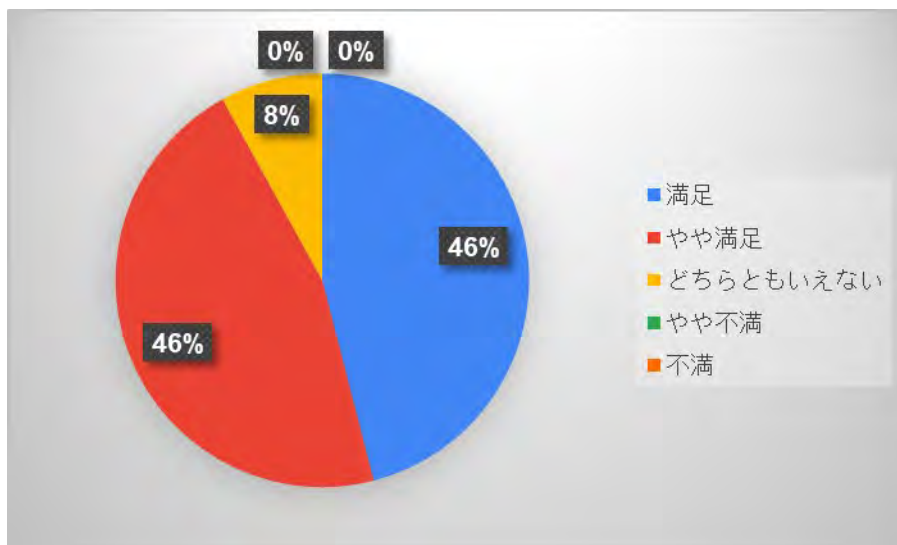
「満足」が70%（32名）、「やや満足」が30%（14名）、「どちらともいえない」が0%（0名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、100%（46名）でした。



アンケート

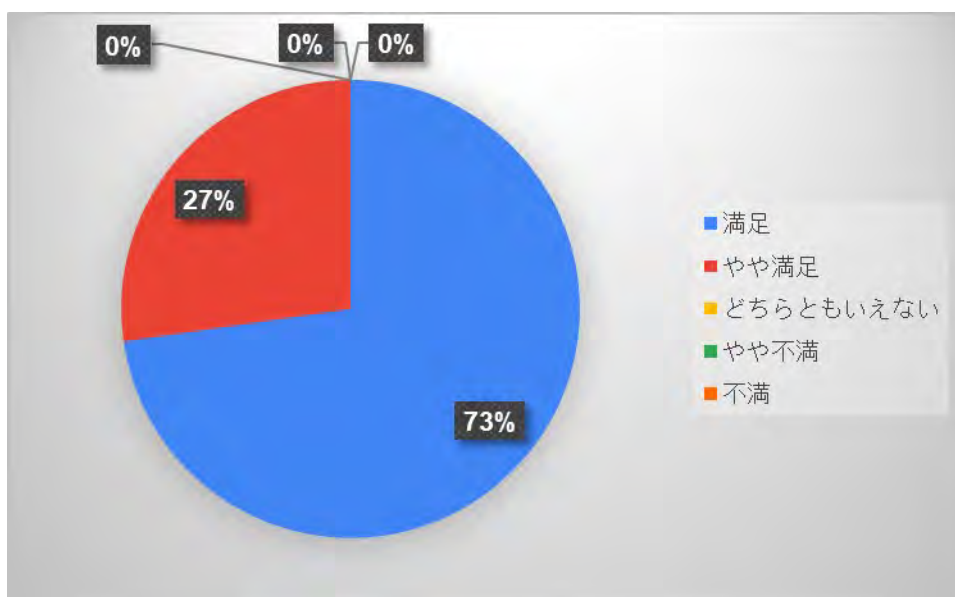
クロージングシンポジウム「インクルーシブ保育はどこへ行くのか?」:回答数 41 名

「満足」が46%（19名）、「やや満足」が46%（19名）、「どちらともいえない」が8%（3名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、92%（38名）でした。



FLEC 映画祭 : 回答数:11 名

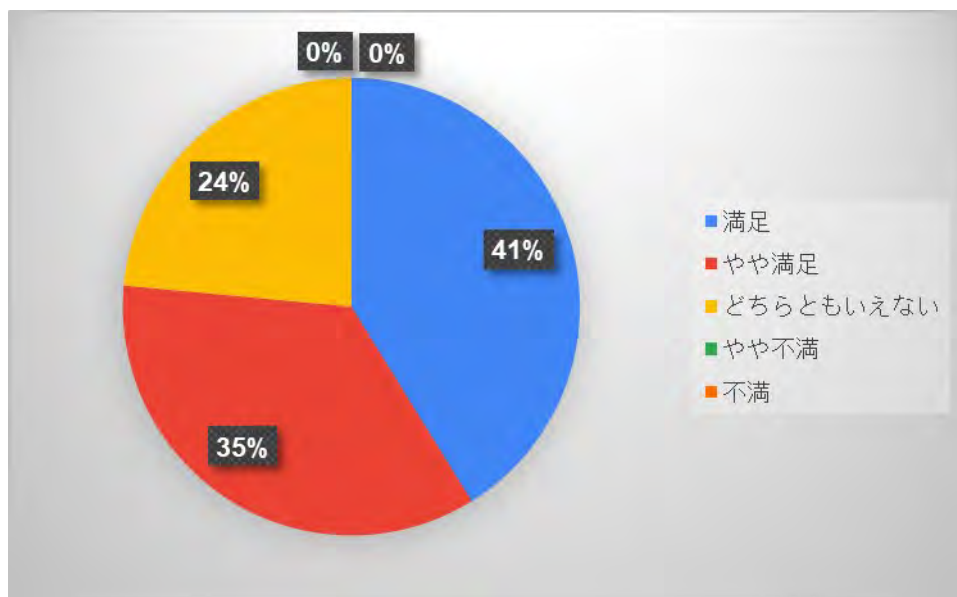
「満足」が73%（8名）、「やや満足」が27%（3名）、「どちらともいえない」が0%（0名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、100%（11名）でした。



アンケート

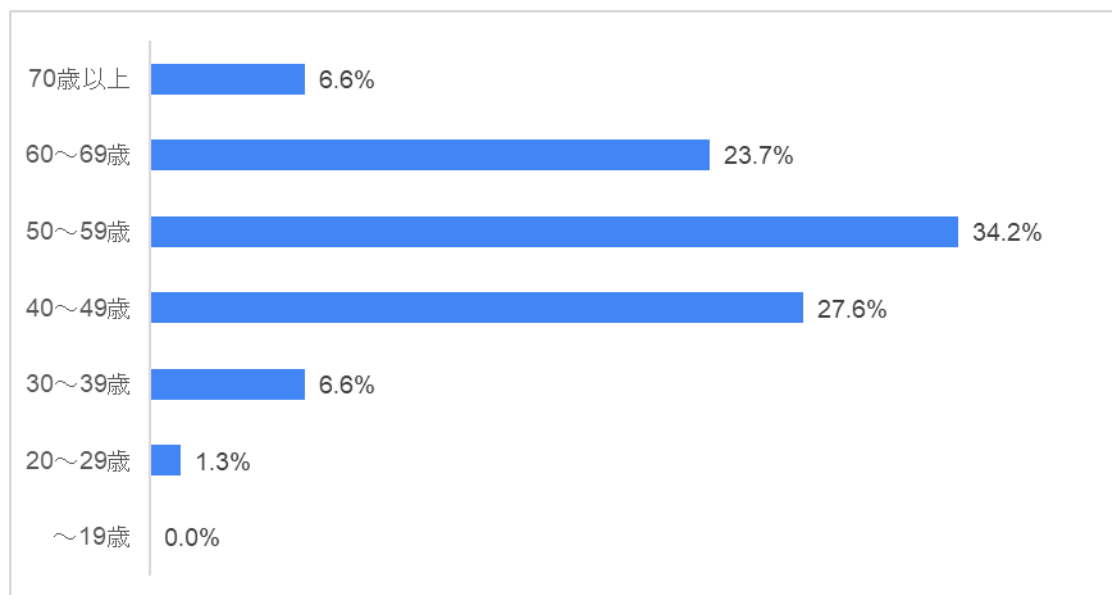
レセプション（大隈ガーデンハウス）：17 名

「満足」が41%（7名）、「やや満足」が35%（6名）、「どちらともいえない」が24%（4名）、「やや不満」が0%（0名）、「不満」が0%（0名）でした。「満足」と「やや満足」を合わせると、76%（13名）でした。



4. 参加者の年齢区分：回答数 76 名

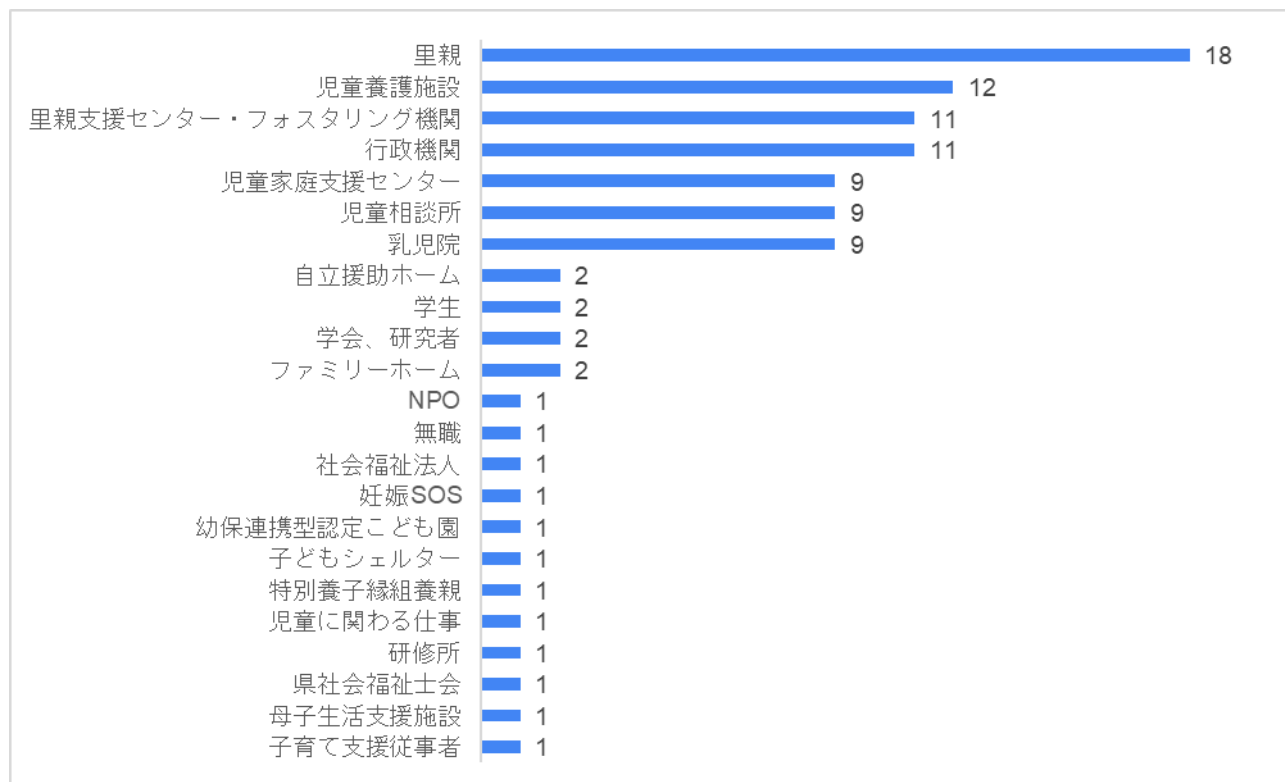
～19 歳以下は 0%、20～29 歳は 1.3%、30～39 歳は 6.6%、40～49 歳は 27.6%、50～59 歳は 34.2%、60～69 歳は 23.7%、70 歳以上は 6.6%でした。



アンケート

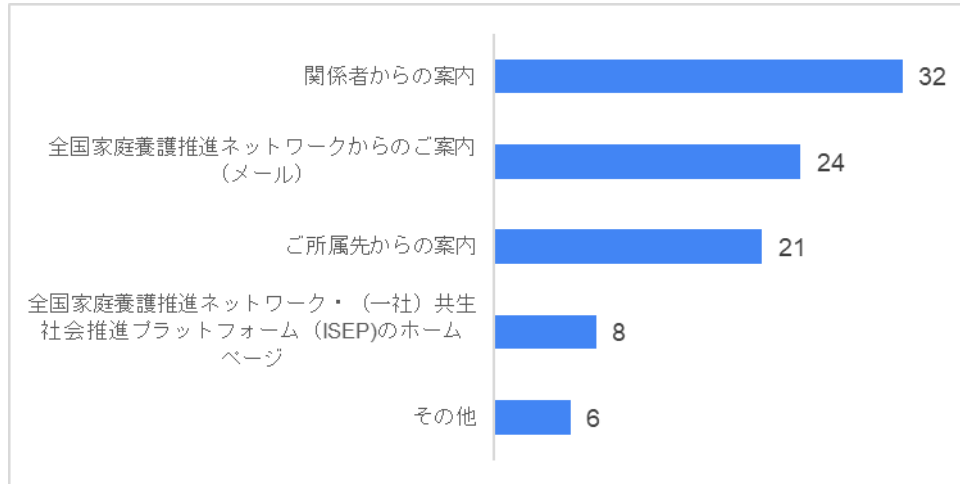
5. 参加者の所属（子どもの社会的養護とのかかわり（所属先、関係性）） ※複数回答可

子どもの社会的養護に関わる色々な関係者にご参加いただきました。多い順に、里親、児童養護施設、里親支援センター・フォスタリング機関、行政機関、児童家庭支援センター、児童相談所、乳児院の順でした。



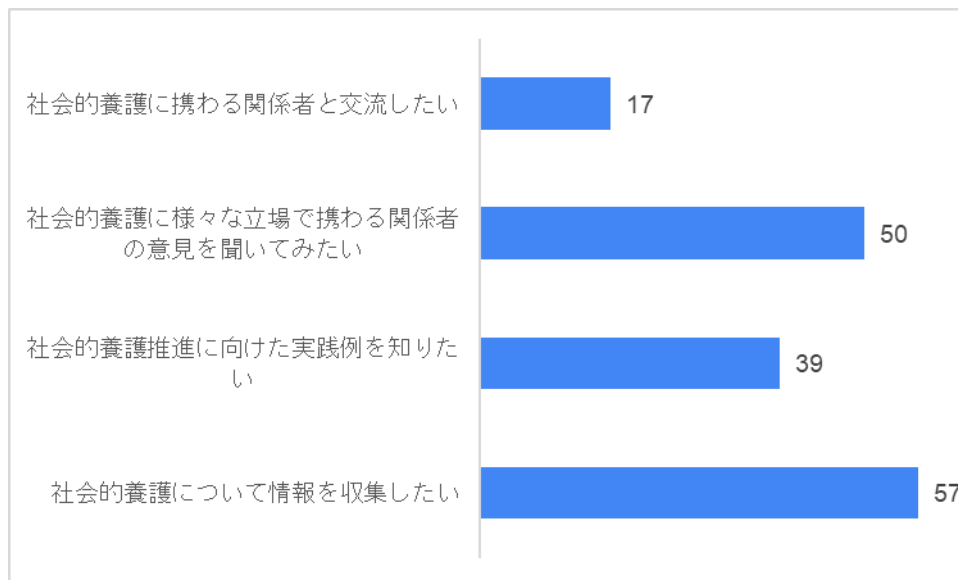
アンケート

6. フォーラムを知った経緯



※その他は、虐待防止学会 1、県社会福祉士会の仲間から 1、認定こども園協会 1、村瀬嘉代子先生にスーパービジョンを受けていた 1、子ども家庭ソーシャルワーカーの受講生で知り合いになった方 1、シンポジストとして参加 1

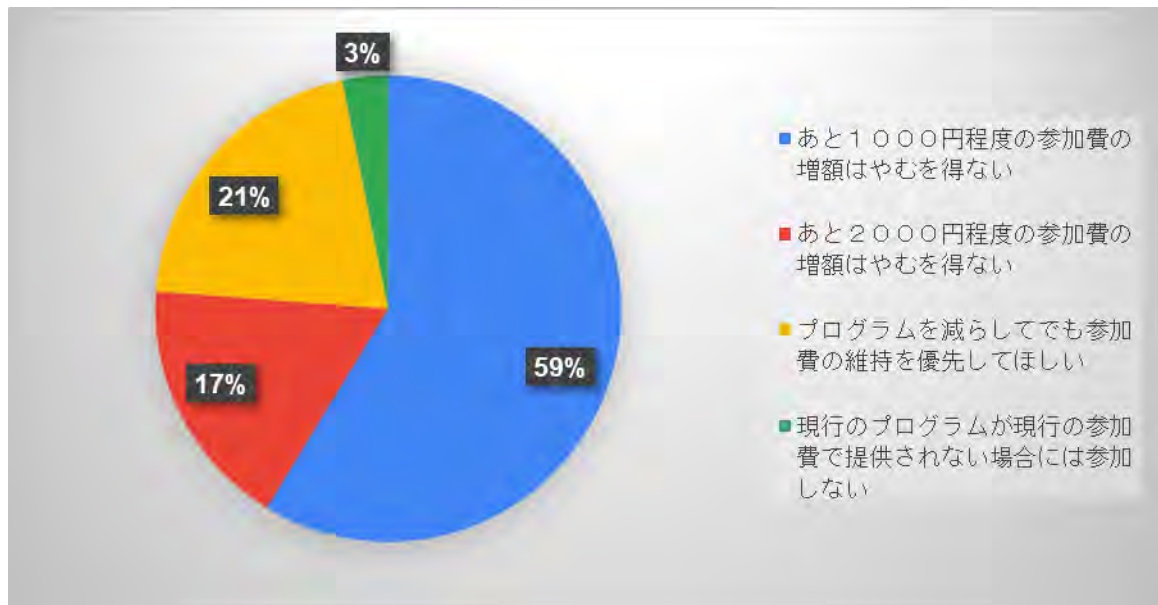
7. 参加目的



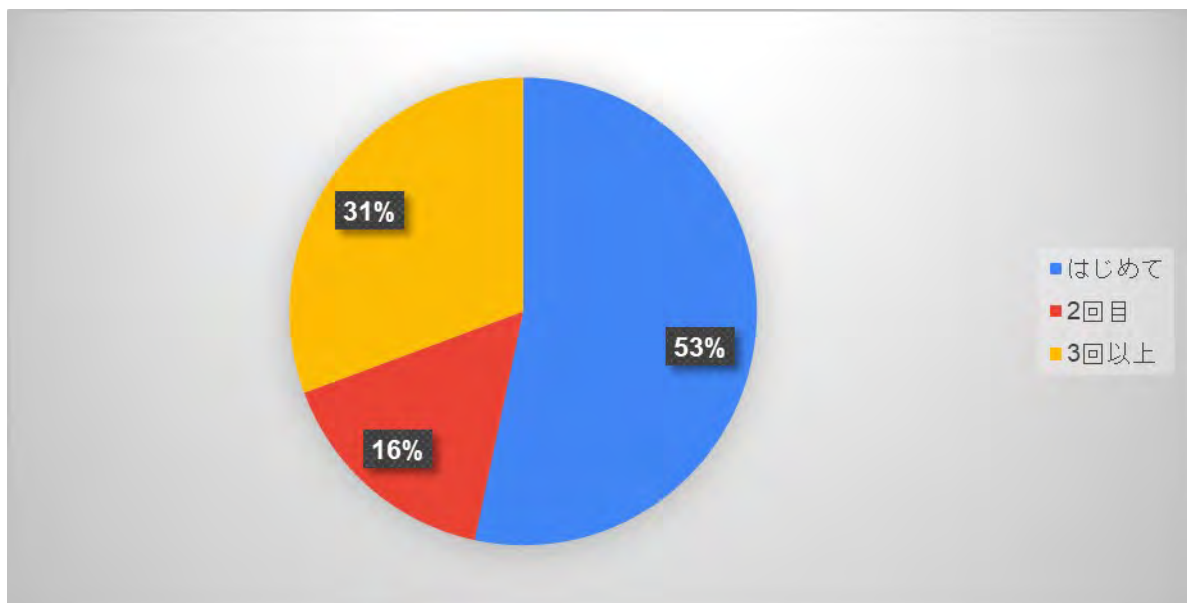
アンケート

8. 参加費について

物価高騰等による運営費の増により、今回も参加費を前回より1000円増額させていただきました。それでもなおフォーラムの運営自体が難しくなっております。今後の方針についての意向として、もっとも近いものを選択していただけますか。



9. 今回は何回目の参加になりますか？



○. 参加者の声（一部抜粋）

（1）特に興味深かった内容

<プレセッション>

こども家庭センターはなぜ必要か ※同様の意見あり

<関連するご意見>

- ・ こども家庭センターが機能している自治体の取り組みを聞くことができ、大変参考になった。
- ・ 子ども家庭支援センターの役割が不明確であったが、理解を深めることができた。
- ・ こども家庭センターには多様な形態があり、相談の敷居を低くする工夫等、相談に結びつかない人々への対応についても知りたかった。
- ・ 子ども家庭センターの先進地域における取り組み状況を学べた。
- ・ 現在、こども家庭センターのセンター長として組織づくりに悩んでいるが、発表自治体の多様な考え方や取り組みに触れ、自分なりに咀嚼しながら取り組んでいこうと前向きな気持ちになった。自治体単位での組織づくりにとどまらず、地域全体での構築を目指したいと考えた。

パーマネンシーを保障する母子生活支援施設の実践と可能性 ※同様の意見あり

<関連するご意見>

- ・ 児童分野において唯一、親子の分離がなされず、親と子のケアを担う母子生活支援施設の取り組みと今後の展開に大いに関心を持った。

<メインシンポジウム>

パーマネンシーを踏まえた家庭養護の推進 ※同様の意見あり

<関連するご意見>

- ・ 国のガイドラインに基づき、各自治体が状況に応じた実施準備を行っていることが分かった。
- ・ 困難な状況にある家庭を守る・支援するのみならず、日常に潜む小さな悩みにも現場で柔軟に対応していることに気づかされた。
- ・ パーマネンシーの概念は、特別な子どもに限ったものではないことを再認識した。
- ・ 大分県の取り組みとして、主役である子どもの意見を反映する姿勢が印象に残った。
- ・ パーマネンシー保障は里親支援においても重要であり、全ての子どもに切れ目のない支援が必要であると改めて実感した。

アンケート

- ・ パーマネンシーについて、具体的かつ包括的に学ぶことができた。
- ・ 畠山先生の熱量を通じて、こども家庭支援への情熱が伝わってきた。
- ・ 基調講演の「子どもの最善の利益」についての考察が心に残った。

<講演録画・鼎談>

故・村瀬嘉代子先生を偲んで ～社会的養護における子どもの養育を考える～ ※同様の意見あり

<関連するご意見>

- ・ パーマネンシーとの強い関連性を感じながら学ぶことができた。

<基礎セッション①>

子どもの意見を聴くとはどういうことか ※同様の意見あり

<関連するご意見>

- ・ 赤塚さんの子どもへの細やかな保育姿勢や、実親への対応に温かさを感じた。貴重なご講演に感謝申し上げる。
- ・ 単なる「子どもの意見を聴く」にとどまらず、赤塚さんの想いや、意見を聴ける環境の整備が調和している点が印象的であった。
- ・ 分科会②③にも関連があるのではと考えており、今後の配信を楽しみにしている。
- ・ パーマネンシーとのつながりを改めて感じながら学ぶことができた。

<分科会>

家庭支援事業なくしてサポートプランなし ※同様の意見あり

<関連するご意見>

- ・ 家庭支援事業や自立援助事業のうち、制度内の一部しか認識していなかったが、制度外の事業の多様性に驚かされた。制度がなくても自ら行うという姿勢に感銘を受けた。

子どもの出自を知る権利について考えよう！ ※同様の意見あり

<関連するご意見>

- ・ 出自を知ることと、それを伝えることの難しさを考えさせられた。

乳幼児総合支援センター実現への道

<関連するご意見>

アンケート

- ・ 増沢先生のご講話を通じて、自分たちの役割が明確になった。

里親養育の質の向上を目指した里親リクルート

〈関連するご意見〉

- ・ 里親業が職業として取り上げられるようになってきているとの話題があり、今後の取り組みに注目したい。

＜特別シンポジウム＞

自立支援の新たな風 ～支援対象の拡大に向けて～ ※同様の意見多数あり

〈関連するご意見〉

- ・ 制度外の柔軟な支援の重要性を実感した。
- ・ 自立援助ホームの現状と課題について理解が深まった。
- ・ NPO 関係者の話がこども家庭庁にも共有されており、非常に意義深いと感じた。
- ・ サンカクシャの現状報告が印象的だった。資金調達の方法にも関心がある。
- ・ 様々なアプローチがあることを改めて考えさせられた。
- ・ こども（若者）ファーストの支援展開が、当事者と共に進められていることに刺激を受けた。
- ・ 多様な立場からの発信は非常に学びにつながった。

＜クロージングシンポジウム＞

インクルーシブ保育はどこへ行くのか ※同様の意見多数あり

〈関連するご意見〉

- ・ 障がいの有無に関係なく子どもが友だちとして接することの自然さに気づかされた。
- ・ 障がい児支援と家庭支援は密接に関係していることを再認識した。
- ・ 障がい児への支援の周知がまだ不十分と感じた。今後さらに時間をかけて取り組む必要性があると感じた。

＜全体に関するご意見＞

〈関連するご意見〉

- ・ 「こどもまんなか」の理念について、多角的に考え直すことができた。運営における課題とその解決策も共有され、大変参考になった。

アンケート

- ・ 非常に多くの学びがあり、各回終了後には深い思索に耽るような経験をした。良い意味で疲労を感じた。
- ・ 昨今の動向を把握する上でも有意義で、終始興味深く視聴することができた。
- ・ 制度に依存すると制限が生じる一方で、制度外の民間の取り組みには限界もあるという現実に気づかされた。
- ・ どのテーマにおいても「一人ひとりの子どものために何ができるか」という本質が共通しており、すべてが非常に興味深かった。

(2) 子どもの社会的養護について、特にご関心のあるテーマを教えてください。

<パーマネンシーの実現と保障>

- ・ パーマネンシーを地域でどう実現するか
- ・ パーマネンシー保障
- ・ パーマネンシー保障と権利擁護
- ・ 在宅支援を含めたパーマネンシーの推進
- ・ 施設・里親・在宅を含めたパーマネンシーは、こどもの成長に大きな影響を与えるとの認識

<里親支援・特別養子縁組・家庭養護の仕組み>

- ・ 養育里親、里親支援センター、支援センター設立
- ・ 施設を介さない特別養子縁組と里親委託
- ・ 乳幼児からのサポートプラン
- ・ 特別養子縁組養親としての関心、法整備・社会基盤の構築
- ・ 里親不調をいかに減らすか（マッチング、委託後支援、見極め、解除後フォロー）
- ・ 外国籍児・障害児の養子縁組・里親委託
- ・ 里親不調後の子どものケア
- ・ 里親制度の啓発・具体的事例
- ・ 里親家庭への支援体制
- ・ フォスタリング機関の取り組み

<自立支援・アフターケア>

- ・ 自立支援・アフターケア全般
- ・ アフターケア事業（特に一度失敗したこどもの復帰に関する好事例）
- ・ 自立後の当事者の声を聴きたい
- ・ 施設出身者の自立支援
- ・ 生い立ちの整理の必要性

<子ども自身の権利・声を尊重する支援>

- ・ 愛着形成、ACEs（逆境的小児期体験）

アンケート

- ・ アドボカシー、こどもアドボカシー
- ・ 子どもの声を聴く、当事者が参加できるプログラム
- ・ 子ども自身の意見表明
- ・ 出自を知る権利とサポート体制
- ・ 実親との交流（子どもの権利・安全、親への配慮）
- ・ ライフストーリーワーク（LSW）
- ・ 当事者活動への関心

<制度・機関の整備と支援ネットワーク>

- ・ 児童家庭支援センター（児家セン）の増設、役割理解
- ・ 人生伴走支援の推進体制の構築
- ・ 児童相談所や自治体の取り組み
- ・ 地域相談支援の輪づくり
- ・ 家庭支援、家族機能維持、家族再統合
- ・ 地域支援と里親養育

<特定の対象への支援>

- ・ 乳幼児総合支援センター
- ・ 思春期の子どもへの支援
- ・ 学齢期の子どもへの支援
- ・ 心理的ケアが必要な子どもへの具体的支援
- ・ 困窮する若者の現状
- ・ 社会的養護に至らない“隙間”にいる子どもたちの居場所支援

<施設の役割と転換>

- ・ 児童養護施設の多機能化・機能転換
- ・ 児童自立支援施設の役割と連携
- ・ FH（ファミリーホーム）に関する関心

(3) 今後基礎セッションとして取り上げてほしいテーマ

<里親・養子縁組・FH>

- ・ 職業としての里親
- ・ 週末里親や一時保護前のレスパイト事業の取り組みの現状と課題
- ・ 里親制度
- ・ 特別養子縁組養親の現状、いかに壁が多いか
- ・ ファミリーホーム

<アドボカシー・子どもの権利・当事者の声>

- ・ アドボカシー
- ・ 当事者の声を聴きたい
- ・ こどもの権利 意見表明
- ・ ライフストーリーワーク（LSW）、子どもアドボカシー、当事者活動等
- ・ 子どもの権利（子どもたちが持つ基本的な4つの柱）

<自立支援>

- ・ 自立支援について、里親や社会的養護を離れる直近のものはあるが、継続的なものが欲しい
- ・ 自立支援
- ・ 社会的養護自立支援拠点事業

<妊産婦・家庭支援>

- ・ 妊娠期からの自立支援とこどもの家庭養育の保障
- ・ 妊産婦等生活援助事業について
- ・ 包括的な子育て・家庭支援に関する内容

<施設の役割>

- ・ 施設の高機能化、多機能化が地域の子育て支援へどのような役割が求められているか。取り組んでいる施設の実践を知りたいです。
- ・ 居住支援を軸として展開する家族支援を行う母子生活支援施設を題材に、連携事例を紹介

<地域>

- ・ 社会的養育について先駆的地域の取り組み事例
- ・ 予防の観点からの地域の子育て支援

<制度・運営・支援の実務>

- ・ 具体的な運営方法
- ・ 未成年後見人の取り組み事例
- ・ 虐待が起きてしまう根本的かつ具体的な要因
- ・ 乳幼児総合支援センター
- ・ 里親支援センター

<障害児支援>

- ・ 障害児と社会的養護もしくは障害児支援

<パーマネンシー保障>

- ・ 引き続きパーマネンシー保障について。

(4) 映画祭で今後取り上げてほしい映画

- ・ 大きな家 (8)
- ・ 万引き家族 (1)
- ・ 朝が来る (1)
- ・ マザー (1)
- ・ あんのこと (1)
- ・ コット、はじまりの夏 (The quiet girl) (1)
- ・ 僕の名前はズッキーニ (1)
- ・ 1640日の家族 (1)
- ・ 海外作品についても上映していただけたら嬉しいなと思います。
- ・ 知識が乏しいので主催者から推奨していただけるとありがたいです。

(5) 改善の提案

<オンライン参加に関する提案>

- 当日の分科会がオンラインで視聴できればよかった
(事務局より補足) 現行の参加費や運営体制では分科会のリアルタイム配信はできかねる状況ですが、後日、録画を配信しております。
- 関心ある分科会を視聴できなかったのは残念だった
(事務局より補足) 後日、録画を提供しております。
- 事後配信が会場参加者のみ対象かどうか疑問。事後配信でも他の分科会を視聴できるようにしてほしい
(事務局より補足) 後日、録画を提供しております。
- 地方在勤のためオンライン参加が第一選択肢になる。他の学会と同程度の参加費であれば助かる
- 後日、期間限定でオンデマンド（見逃し）配信があると嬉しい
(事務局より補足) 後日、オンデマンド配信（録画）を提供しております。
- Zoom 参加時、音声聞こえづらい場面があった
- スマートフォンで申し込んでいたため PC 接続に手間取った。改善できないか

<時間配分・構成に関する提案>

- 内容が時間に対して詰め込みすぎだと思う
- 少し内容が多すぎる
- シンポジストの話をもう少しじっくりと聞きたかった
- シンポジウムは人数を減らした方がよい
- 現行の時間内では無理がある
- 講演者が多すぎるのでテーマを絞った方が伝わりやすい
- 講演が連続すると一方通行になりがちなので、トークセッションやワークショップ等も取り入れてほしい
- 内容が盛りだくさんで聴講したいテーマがかぶる
- もう少しテーマや議題を減らしてもよいのではないか
- シンポジストの報告時間が長く、パネルディスカッションが短くなるのは残念
- シンポジスト報告はポイントを絞り、掘り下げはディスカッションでしてほしい
- 題名が興味を引かなかった。サブタイトルを工夫して参加を促進してほしい

アンケート

- ・ タイマーを登壇者の席に置いた方がよい
- ・ 登壇者を絞り、フリーディスカッションを充実させてほしい

<案内・周知に関する提案>

- ・ 分科会の案内がわかりにくかった
- ・ 今回初めてフォーラムについて知った。行政機関の人にも広く周知してほしい
- ・ このフォーラムの意義を、全社協等から発信してほしい

<参加費・助成に関する提案>

- ・ 参加費が個人負担では高額に感じる
- ・ 里親会やユースの会から助成を検討してほしい
- ・ 他のオンライン学会と同程度の参加費であれば参加しやすい

<登壇者に関する提案>

- ・ 助言者のコメントは不要。助言者になるとその人自身の思いが聞けない。パネリストとして登壇してほしい

<開催時期・会場に関する提案>

- ・ 3月は年度末のため避けてほしい
- ・ 会場が駅から遠く、荷物・傘を持つての移動が大変だった

<参加形態・環境に関する提案>

- ・ 学生割引を利用した者にも資料の提供をお願いしたい
(事務局より補足) 学生割引参加の方にも資料は提供しており、受付でダウンロード用のQRコードをお渡ししておりました。わかりづらかったようであれば申し訳ありません。
- ・ 他機関・参加者との交流をもっと促進してほしい

<その他の意見（改善提案ではないが記載された意見）>

- ・ 初めての参加だったが大変学びの多いフォーラムだった
- ・ 会場参加して正解だった
- ・ 皆様の取り組みに感謝

アンケート

- ・ 非常に有意義なフォーラムだった
- ・ 参加者への配慮があり充実感があった
- ・ 可能な限り現地で拝聴したい

(6) その他のご意見

<感想>

- ・ 非常に有意義で勉強になった。
- ・ 子どもの社会的養護において必要なことを学べた
- ・ 支援者の思いや取り組みが伝わった
- ・ 多くの関係機関が参加し、先駆的な事例を学べた
- ・ 長いプログラムだったが、構成がよくファシリテーションも素晴らしかった
- ・ 運営が素晴らしかった
- ・ 参加者に対する配慮が感じられた
- ・ 登壇者の発表内容が素晴らしかった
- ・ 主催者や登壇者の熱意に励まされた
- ・ 対面での参加が有意義だった
- ・ 最新の取り組みや情報が学べた
- ・ 里親や児童相談所の役割について考えさせられた
- ・ 多様な機関・所属の登壇者同士の意見交換が面白かった
- ・ シンポジウムでのディスカッションが理解を深めた
- ・ オンライン参加がとても良かった
- ・ 録画配信を楽しみにしている
- ・ オンデマンド配信で参加できなかった分科会等を視聴できるのが良い
- ・ 多くの学びや気づきを得られた
- ・ フォーラム開催に対する感謝
- ・ 今後も参加したい
- ・ 社会的養護に関わる皆様の努力に感謝

<ご提案>

- ・ 会場で配布された大会資料を送付してほしい（オンライン参加者より）
（事務局より補足）会場のみで配布している資料はございません。

アンケート

- ・ 時間配分に対してボリュームがあり調整が難しいと感じた
 - ・ 時間が押して休憩時間が短くなったのが残念
 - ・ マスク着用のアナウンスをしてほしい（咳をしている参加者がいたため）
 - ・ 特別養子縁組養親のフローや体験談なども扱ってほしい
 - ・ こども家庭庁だけでなく法務省なども巻き込んでほしい
- 現地参加を将来的に目指したい

報告書

第7回 FLEC フォーラム～～家庭養護の推進と子ども子育て支援施策の包括化に向けて～

発行 一般社団法人 共生社会推進プラットフォーム

住所 〒007-0836 北海道札幌市東区北 36 条東 9 丁目 2-28

MAIL info@isephp.org